

ハンズオンセミナー

ハンズオンセミナー

「フィブロスキャンを用いた肝硬度測定と肝脂肪量評価のポイント」

5月24日（金）14：20－18：15 第15会場（ザ・プリンスさくらタワー東京2F
（ハンズオンセミナー会場）S5-S9）

講師：松本直樹（日本大学医学部消化器肝臓内科）

伝法秀幸（虎の門病院分院臨床検査部）

共催：株式会社インテグラル

血管エコーハンズオンセミナー 1

「頸動脈, 大動脈, 下肢動脈, 下肢静脈, 腎動脈」

5月25日(土) 8:10 - 9:50 第15会場 (ザ・プリンスさくらタワー東京2F
(ハンズオンセミナー会場) S5-S9)

血管エコーは主に頸動脈や腹部血管, さらに下肢動脈や下肢静脈など, 全身に渡り広く臨床に活用されています。血管エコーを習得するには, 基本的な血管疾患の知識のみならず, 技術の向上と得られた所見を読み解く力が必要です。基本的な走査法は実際に経験しながら培われていくので, 座学での知識習得のみならず, 正しい画像描出法を体験し臨床に役立てることが重要です。本セッションでは, 血管領域におけるエキスパートのハンズオン講師から実技指導を行って頂きます。プローブ走査のコツはもちろんのこと, 機器の設定や最新の評価方法などを習得していただき, 初級者から中級者まで幅広いレベルの方に対するスキルアップを目指します。参加頂いた皆様のニーズにお応えし, より多くの方に血管エコーの有用性を知って頂き, 最新の知識を得る機会となれば幸いです。

座長: 三木 俊 (東北大学病院生理検査センター)

講師: 頸動脈 菊地 実 (萬田記念病院放射線科)

下肢動脈 船水康陽 (東北大学病院生理検査センター)

下肢静脈 中野英貴 (小張総合病院検査科)

大動脈 沖 都麦 (神戸大学医学部附属病院検査部)

腎動脈 三木未佳 (東北大学病院生理検査センター)

血管エコーハンズオンセミナー 2

「頸動脈, 大動脈, 下肢動脈, 下肢静脈, 腎動脈」

5月25日(土) 10:10 - 11:50 第15会場 (ザ・プリンス桜タワー東京2F
(ハンズオンセミナー会場) S5-S9)

血管エコーは主に頸動脈や腹部血管, さらに下肢動脈や下肢静脈など, 全身に渡り広く臨床に活用されています。血管エコーを習得するには, 基本的な血管疾患の知識のみならず, 技術の向上と得られた所見を読み解く力が必要です。基本的な走査法は実際に経験しながら培われていくので, 座学での知識習得のみならず, 正しい画像描出法を体験し臨床に役立てることが重要です。本セッションでは, 血管領域におけるエキスパートのハンズオン講師から実技指導を行って頂きます。プローブ走査のコツはもちろんのこと, 機器の設定や最新の評価方法などを習得していただき, 初級者から中級者まで幅広いレベルの方に対するスキルアップを目指します。参加頂いた皆様のニーズにお応えし, より多くの方に血管エコーの有用性を知って頂き, 最新の知識を得る機会となれば幸いです。

座長: 八鍬恒芳 (東邦大学医療センター大森病院臨床生理機能検査部)

講師: 下肢静脈 山本哲也 (埼玉医科大学国際医療センター)

大動脈 藤崎 純 (東邦大学医療センター大橋病院臨床生理機能検査部)

頸動脈 宮崎寿哉 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院画像診断部)

腎動脈 寺西ふみ子 (八尾市立病院中央検査部)

下肢動脈 富田文子 (済生会熊本病院中央検査部)

運動器 ハンズオンセミナー

医師の世界では、局所の病態を治療する注射が盲目的手技から、可視化したエコーガイド下手技へと変化しています。理学療法士の世界でもまた、体表から触れる指先の感覚に依存した盲目的手技から、可視化したエコーガイド下手技へと変化し始めています。骨・筋・腱・靱帯を中心に運動器障害を解釈してきた考え方を、末梢神経中心に切り替える発想の転換、これが令和時代の日常診療・理学療法をワンランク上のステージに引き上げます。

超音波ガイド下 Hydrorelease

5月25日(土) 13:30 - 15:30 第15会場 (ザ・プリンスさくらタワー東京2F
(ハンズオンセミナー会場) S5-S9)

ディレクター：仲西康顕 (奈良県立医科大学整形外科教室)

皆川洋至 (医療法人城東整形外科)

運動器エコーのための触診教室

5月25日(土) 15:30 - 16:30 第15会場 (ザ・プリンスさくらタワー東京2F
(ハンズオンセミナー会場) S5-S9)

ディレクター：渡部裕之 (医療法人城東整形外科)

皆川洋至 (医療法人城東整形外科)

頭頸部超音波診断ハンズオンセミナー

5月26日(日) 10:00 - 12:00 第15会場 (ザ・プリンスさくらタワー東京2F
(ハンズオンセミナー会場) S5-S9)

超音波検査(US)は軟部組織の空間分解能が高く、非侵襲的かつ簡便で、リアルタイムに診断に直結した情報を得ることができる。USは比較的表層に存在する組織の診断に威力を発揮するので頭頸部領域の診断に有用である。

頭頸部領域には重要臓器として甲状腺や唾液腺、咽喉頭、気管、食道、総頸動脈、内頸静脈などがあり、病変部とこれらの臓器との関係を正確に評価する必要がある。そのため、基本となる臓器や血管をメルクマールとして同定し、病変部の位置や深さを確認していくことになる。また、病変部の存在診断のみならず、様々な質的診断を行うことも可能となってきた。こうした技術と知識を組み合わせると、手術の可否を決める情報を提示することもできるようになってきた。

本セミナーは解説・実習を通して、頭頸部領域の超音波診断について理解を深めることを目的とする。

- 座長** : 志賀清人 (岩手医科大学頭頸部外科学科)
松浦一登 (国立がん研究センター東病院頭頸部外科)
- ディレクター** : 古川政樹 (ひろ・やまクリニック)
- チーフインストラクター** : 古川まどか (神奈川県立がんセンター頭頸部外科)
- インストラクター** : 福原隆宏 (鳥取大学医学部感覚運動医学講座耳鼻咽喉・
頭頸部外科学分野)
下出祐造 (金沢医科大学頭頸部外科学)
藤本保志 (名古屋大学耳鼻咽喉科学教室)
花井信広 (愛知県がんセンター頭頸部外科部)